



フジサンケイ ビジネスアイ

「第26回独創性を拓く 先端技術大賞」 募集要項

科学技術創造立国を担う若手研究者の優れた研究成果を募ります。
締め切りは3月末。奮ってご応募ください。

【先端技術大賞表彰制度の趣旨・目的】

フジサンケイ ビジネスアイは、理工系学生の独創性と創造性をはぐくみ、研究への意欲を高めることを目的に1986年に「先端技術学生論文表彰制度」を創設しました。「科学技術創造立国」の実現には、産学官の連携や若手技術者の育成が不可欠なため、第16回からは企業の若手研究者・技術者も表彰対象に加え、名称も「独創性を拓く 先端技術大賞」に改めました。第26回を迎える今回も「学生部門」「企業・産学部門」の2部門で募集します。

【制度概要】(予定含む)

名 称	第26回 独創性を拓く 先端技術大賞
後 援	文部科学省 経済産業省 フジテレビジョン 産経新聞社 ニッポン放送
表彰内容《企業・産学部門》	最優秀賞： 経済産業大臣賞 副賞（研究奨励金） 優 秀 賞： 産経新聞社賞、フジサンケイ ビジネスアイ賞 各副賞（研究奨励金） 特 別 賞： 副賞（研究奨励金）
《学生部門》	最優秀賞： 文部科学大臣賞 副賞（研究奨励金） 優 秀 賞： フジテレビジョン賞、ニッポン放送賞 各副賞（研究奨励金） 特 別 賞： 副賞（研究奨励金） ※特別賞は主に高専生を対象としますが、高専生の大賞受賞など他賞への入賞を制限するものではありません。
締め切り	2012年3月30日(金)必着
発 表	2012年6月 (フジサンケイビジネスアイ、産経新聞、サンケイスポーツ、夕刊フジ、サンケイエクスプレス)
表 彰 式	2012年7月予定

【応募方法】

下記の内容を事務局宛にご郵送ください。

(1) 論文またはレジメ	A4用紙にプリントアウトしたもの（画像データ含む） ※書き出しは、下記に準じて下さい。 ①第26回先端技術大賞応募論文 ②論文タイトル ③氏名と所属 ④諸言（序論） ※図表はできるだけ1ページに2点以上収納してください。 ※手書き原稿は不可 ※前回の入賞論文も参考にしてください。 (http://www.fbi-award.jp/sentan/jusyou/index.html)
(2) 応募用紙	http://www.fbi-award.jp/sentan/bosyu/index.html からダウンロード。もれなく記入し印刷してください。
(3) データ	上記の論文と応募用紙の元データ（ワード、テキスト形式）と、論文元データをPDF化したもの。※専門性の強いソフトを使用している場合はワードに変換してください。
(4) FD、CD-R など	上記(3)を保存したメディア

※応募論文は返却しません。入賞作品の著作権はフジサンケイ ビジネスアイの帰属となります。

●詳細につきましては下記HPをご覧ください

<http://www.fbi-award.jp/sentan/index.html>

【募集対象】

企業・産学部門	2011 年度に発表した企業や産学連携の研究開発成果（近い将来の実用化を見据えた技術論文、新製品などあらゆる研究開発）で研究者、研究グループ代表者の年齢がおおむね 40 歳以下の若手研究者、技術者。
学生部門	国・公・私立大学の学生・大学院生、工業高等専門学校生およびこれらの学生グループ。留学生も可

【募集分野とテーマ】（下記から 1 分野を選択、テーマは自由）

A	エレクトロニクス・情報
B	バイオ、生体・医療、医薬、食品
C	材料
D	環境・エネルギー
E	一般工学（機械・土木など）
F	ノンセクション（上記 A～E の複数領域にまたがるか、この領域外のテーマ）

◎審査では専門性にとどまらず、論文構成力など多面的に審査を行います。

◎審査には専門の審査委員の方以外にもあたります。

【内容】（下記のどちらかを選択）

技術論文	日本語で書いた未発表の科学技術論文で将来へ夢をかけた独創性、創造性あふれる論文。字数は 8,000 字以内（部分的に学会誌などに発表したものは可。ただし発表先を明記。図表・謝辞は字数に含まない）。
新製品	技術内容を 5,000 字以内でまとめたもの。ニュースリリース、カタログ中心の応募は不可

※応募論文は返却しません。

※提出期限を過ぎたもの、募集規程に沿っていない場合は事務局、審査委員会で審議の上、審査対象から除外する場合があります。

※入賞作品はフジサンケイ ビジネスアイ紙または弊社が発行する印刷物に掲載予定。

※入賞作品の著作権はフジサンケイ ビジネスアイに帰属するので、学会誌・業界誌に投稿した作品をそのまま用いることはできません。一般の新聞読者も一定の理解ができることを考慮して文章化してください。ただし、専門用語を排除するものではありません。

◎実用化、商品化された際の効果にも言及して下さい。

【審査委員会】（予定含む）

◎審査委員長 阿部 博之（独立行政法人科学技術振興機構顧問、東北大学名誉教授）

*は座長

《学生部門》

《企業・産学部門》

エレクトロニクス・情報	*辻井重男・中央大学 教授	田井一郎・株式会社東芝 常任顧問
	伊藤精彦・北海道大学 名誉教授	
	中村孝夫・山形大学大学院 教授	
バイオサイエンス・バイオテクノロジー	*原田宏・バイオインダストリー協会評議員、筑波大学 名誉教授	小林弘明・東レ株式会社 顧問
	軽部征夫・東京工科大学 学長	倉根隆一郎・中部大学 教授
	柳田敏雄・大阪大学大学院 特任教授	
材料	*齋藤省吾・九州大学 名誉教授	*小島彰・社団法人日本鉄鋼協会 専務理事
	桑原誠・東京大学 名誉教授	
	増本健・財団法人電磁材料研究所理事長	
ノンセクション	曾我直弘・滋賀県立大学理事長・学長	
	審査員全員	審査員全員

【問い合わせ先】

先端技術大賞事務局

電話：03-3273-6102 FAX：03-3241-4999

E-mail: sentan@sankei.co.jp URL: <http://www.fbi-award.jp/sentan/>